

【資料3－2】令和7年度 西山手高齢者生活支援センター イチオシ活動

～若い世代への認知症啓発について～

活動概要

認知症への理解を深めるため、地域住民に向けた啓発活動
特に若い世代へ・子育て世代へのアプローチが不足していると感じ
今年度は若い世代へ向けた活動を取り組む予定

きっかけ

アンケート※別紙参照

令和6年度 9月21日
世界アルツハイマーデーイベントにて認知症の啓発を実施
アンケート結果から、若い世代(子育て世代)は
「学びたいが、きっかけがない」「忙しくて時間がない…」
この世代への学びや理解を深めるアプローチが必要



目標

地域住民と協働して、さまざまな方法で
認知症への理解を深めることができる

芦屋市西山手高齢者生活支援センター
令和7年7月23日時点

内容・取り組みスケジュール

- ・ **9/21(日)アルツハイマーイベント**
セブンイレブンJR芦屋駅前店 14:00～15:00
対象：地域住民
⇒6年度同様に、アンケート・啓発グッズ・ほっとナビ等配布
○広報あしや 9月号掲載 チラシ配布

- ・ **10/18(土) ハロウィンイベント 予定**
場所：前田集会所
内容：認知症講座、仮装イベント
対象：子育て世代

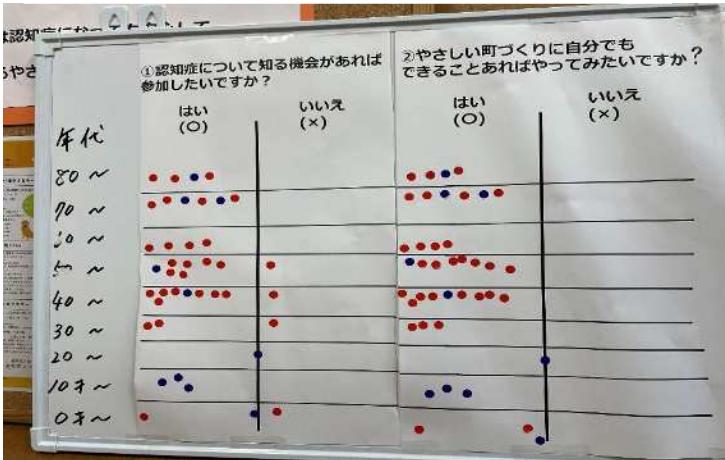
取り組みポイント

- ・ **生活支援コーディネーターと協働し地域資源のマッチング**
⇒企業の地域貢献や住民の得意な事や特技を組み合わせてイベント実施
手作りのロバ隊長マスコットストラップの作成は
手芸が得意な住民のかたにご協力頂く。
今年度は、ロバ隊長マスコット以外にも赤ちゃんスタイルも作成予定

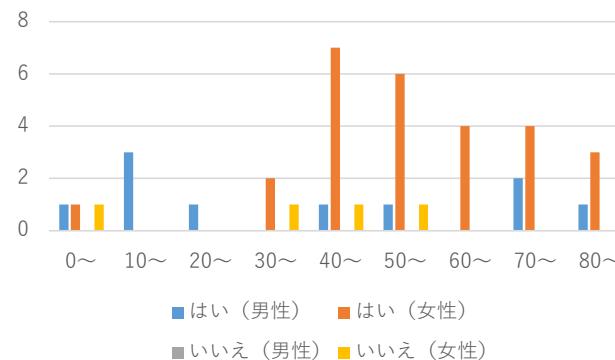
- ・ **兵庫医科大学病院認知症疾患医療センターとの連携**
⇒相談員の方に、講座講師として協力頂く予定

- ・ **“楽しい”をきっかけにして、認知症を知る機会を確保**
⇒認知症のみのテーマでは、若い世代へのアプローチは難しい。
楽しい、参加してみたい、親子で参加できるなどのイベントが
きっかけになるように企画。

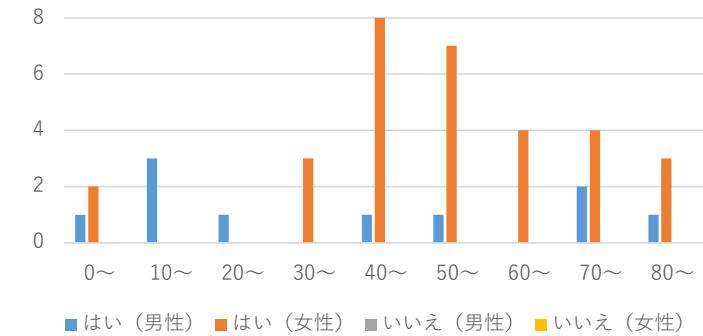
R6.9.21アルツハイマーイベント アンケート



Q1.認知症について知る機会があれば
参加したいですか？



Q2.芦屋市はやさしい町づくりを目指しています。
自分でもできることあればやってみたいですか？



Q1.について

- 「いいえ」に回答した50代のかたは、「今までたくさんの講座などに参加してきたから」という理由のため。
- 30～40代のかたは子育てをしている方が多く、「はい」と回答した方は、「自宅近くで時間があれば良いのだが」と言う方が多かった。
- 「いいえ」に回答した方も興味がないわけではなく、参加したい気持ちはあるが「(家事育児に)忙しくて暇がない」と。
- 20代男性は外国人(ネパール)、「認知症がわからないから答えにくい…」と。

Q2.について

- バルーンアートに惹かれて足を止めてくれた子供たちが多く、親御さんにアンケート回答してもらうことが出来た。
- 手作りのロバ隊長マスコットが人気で、顔や柄が少しずつ違うため、楽しそうに選んで頂けたのが印象的。
- 見守りや困っている人がいたら声をかける等、小さなことでも良いのであれば自分でもやっていきたいとの回答が多い。
- 子育て世代への周知啓発を勧めていきたいが、多忙のため参加が難しそうな印象。子どもが参加できたり、子どもに学んでもらえたりするようなアプローチをして子育て世代へも認知症に関する正しい知識が周知できるよう工夫していきたい。
→今年度、実施の際には、近い日程で認知症講座を予定、紹介できるようにしたい。
- ロバ隊長マスコットは、前田集会所につど手芸の得意な高齢者の方々も作って下さった。今年度は夏休み期間中に子供たちにロバ隊長マスコットを作成してもらいながら、認知症についての話が出来ればと考える。
- JR芦屋駅周辺にはセブンイレブンが3箇所あり、チラシに町名を記載していても迷う方がおられた為、地図も記載しておいた方が良かった。

◆ 東山手高齢者生活支援センター

令和7年 イチオシ活動

～要援護者が取り残されない地域防災体制を目指して～

2025年7月

令和7年度 東山手高齢者生活支援センター

イチオシ活動

イチオシ活動の概要

圏域における災害対策体制の構築に向けて、令和4年度には地域内の防災対策の実態把握や、体制整備に向けた準備として、自主防災会への参加やインタビューを実施しました。

当時の取組を通じて、地域ごとの現状や課題、今後の連携の可能性についてヒントを得ることが出来ました。

今年度はあらためて災害対策体制の再構築に向けた取組を再開し、地域と協働して一歩踏み出していくことを目指しています。



課題と目標

【課題】

平常時における基礎的な情報、有事の際に必要となる支援情報、および詳細な支援が必要となる個別対象者の情報について、関係機関間での共有体制が十分に整っていない現状がある。



【目標】

災害時に援護が必要な高齢者等が取り残されることのないよう、平常時から地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、医療機関、行政など多機関が連携し、要援護者支援に関する情報共有と支援体制を構築することで、地域における実効性ある防災体制を整備する。



要援護者が取り残されない地区防災体制の構築を目指して

取り組み内容・スケジュール

地区防災会の会合に出席し、情報交換、意見交換をおこなう

- (1) 定期的に会合へ出席し、どのような情報が必要になるかを共有する
- (2) 必要となる情報の共有・支援体制を検討する
- (3) 安否確認・避難支援の役割分担を検討する



今年度中にやりたいことはコレ！

『地区防災関係機関による意見交換、情報共有の会』

を開催!! したい…



●イチオシ活動の概

- ・人と人がつながり、居場所や活動の場づくりを進める取り組み
- ・地域住民と社会資源をつなぎ、自主的な活動を後押し

● きっかけ

- (1) 身近な場所でのさわやか教室開催から自主グループへの移行ができた
- (2) 個別ニーズに対応したマッチングによる社会参加の促進



● 現況(背景)・課題

- ・「近く」「誘い」が参加のカギになる



- ・マッチングには丁寧なつなぎとフォローアップが必要
- ・高齢者生活支援センターのマンパワー不足が課題



● 目標

住民の個別ニーズと地域の社会資源とのマッチングを行い、住民の活動・参加の機会が増えて、地域の介護予防レベルが向上する。

● 取り組み体制

- ① 「さわやか教室」の開催と終了後の自主グループ化等の継続支援
- ② 地域ささえあい推進員との連携による個別ニーズからのマッチングの実践

● 具体的な取り組み・スケジュール

- ① 「さわやか教室」の開催と終了後の自主グループ化などの継続支援

「身近な場所でのさわやか教室の開催」

- ・R7.4～6 若宮集会所
- ・R7秋～ “うちぶん”

- ② 地域ささえあい推進員との連携による個別ニーズと社会資源のマッチング

「野菜を育てたい住民」

×「庭木を持て余す地域密着型デイサービス」

etc…

潮見高齢者生活支援センター イチオシ活動

1 活動概要

潮見地区では、新型コロナウイルス感染症流行以前は、地域のイベント開催や自治会の活動が活発に行われていた。センターも地域のイベントに参加、お出かけ講座の開催、民生委員が気軽に立ち寄られ相談を受ける等、地域の人と交流が活発に出来ていた。しかし、感染症流行後より、地域のイベントが縮小、支援者の高齢化などで地域との交流が減少している。

3 現状

- ①高齢者生活支援センターが地域に周知出来ていない。
- ②民生委員の高齢化、欠員、後任がいないことで地域を支える担い手が不足している。
- ③自治会の役員が高齢化、活動が低下している。また自治会がない地域もあり高齢者の問題が見えづらい。

2 きっかけ

- ①センターへの相談経路が、市役所や病院からの案内が多くを占め、地域に対しセンターの周知が不十分であると感じた。
- ②新型コロナウイルス感染症流行後より、センターのお出かけ講座の依頼がなくなっていた。
- ③担当圏域の変更をきっかけに、地域への関わりを振り返り、取り組みの必要性を改めて感じた。

4 目標

地域を支える担い手不足、地域と連携が不十分。

潮見高齢者生活支援センター イチオシ活動

目標

地域に
種をまこう！



1 取り組み体制

- 地域のイベントに参加、地域でお出かけ講座を開催し、センターの周知を図る。
- 自治会・民生委員等と積極的に交流を行い、相談しやすい関係を作る。
- SNSで情報発信を行う。



潮見高齢者生活支援センターの周知・地域と連携・地域の集い場・担い手発掘ができるよう、地域に種をまこう！！

2 具体的な取り組み

- 地域のお祭りに参加
- 民生委員が出席する地域の会議に参加
- 自治会、老人会にお出かけ講座開催のアプローチ
- SNSを使いセンターの活動を周知
- 地域でスマホ相談会を開催
- C Mと民生委員の交流会開催
- 潮見地区でボッチャの普及活動



令和7年度 打出浜イチオシ活動について

打出浜高齢者生活支援センター

令和7年7月31日 時点

【イチオシ活動の概要】

当センターは昨年の10月に新たに設置されたが、市からのアナウンスからセンター開設までの時間も短く、センターが新たに設置されたことの地域住民や地域の社会資源への周知が未だ十分になされていない状況である。また、地域向けの交流スペースをセンターに併設しており、集い場等で住民に活用してもらえるよう働きかけ、住民にとってより身近に感じていただくセンターを目指す。

【キッカケ】

センター開設後に地域の集い場等で地域住民と話しをする機会があったが、高齢者生活支援センターが変わったことを知らない方が多かった。

【現況】

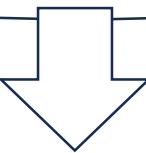
少しずつセンターの周知は進んでいるが、介護保険サービスを受けていない方や地域活動等に参加されていない方、地域の商店などにはまだ十分に認知されていない。



【課題と目標】

課題：地域住民に、新しい高齢者生活支援センターが認知されていない。

目標：地域住民や地域の地域資源へ、打出浜高齢者生活支援センターの役割や場所の周知を図る。



【対象者】

圏域内の全戸、クリニック・薬局・店舗等の地域資源

【取り組み体制】

打出浜高齢者生活支援センター周知のためのチラシを作製
センター職員が地域を知ることも目的とし、センター職員全員で手分けし、全戸配布（約8,000戸）する



【スケジュール】

6月：チラシの作成

7月～年度末（できれば12月末）までに、全戸配布完了

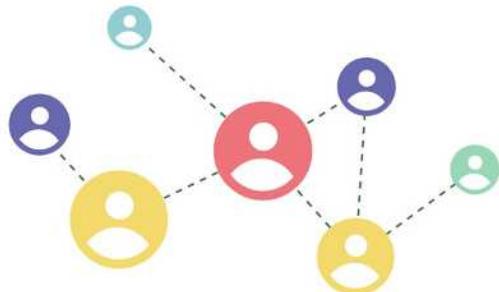
2～3月頃：振り返り（地域を回って気づいたことなどを共有）

- 「地域包括ケアシステム」は、「地域共生社会実現」を上位概念とする中位概念で、主に高齢者が、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、保険者である市が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくとされている。
- この中位概念に対し、地域包括支援センター運営事業や介護予防・日常生活支援総合事業、在宅医療・介護連携推進事業、認知症施策推進事業、生活支援体制整備事業などが、さまざまな形態で実装・実施されている。
- 高齢者の尊厳の保持や自立支援を目的として実施される前出の事業や日常的な実践を下支えするのが、多様者主体間の連携・協働であり、その中核となるのが多職種連携（医療と介護の連携）である。芦屋市における具体的取組として「自立支援型地域ケア個別会議」、「芦屋多職種医療介護 ONE チーム連絡会」、「西宮市・芦屋市の退院調整ルール」等が挙げられるが、市内5か所のエリア（センター担当圏域）毎に「どのようなネットワークがあればより多職種連携を推進できるか」について可視化されているものは存在しない。
- これを「多職種連携ネットワーク構想」として可視化することを当面の目標とする。なお、この取り組みは、構想図の完成目ざすものではなく、多職種連携のあり方や課題を「関係者と協議するプロセス」に価値を置く。また、ネットワーク構想は取り組みによって経時的に変化するもので、ネットワーク構築のプロセスで隨時見直されるものとする。

上位概念	地域共生社会実現（社会福祉法 第4条の2 / 2016年改正・施行）	
中位概念	地域包括ケアシステム（地域医療介護総合確保推進法 第2条）	包括的支援体制（社会福祉法 第106条の3）
具体的事業	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターの運営（包括的支援事業） 在宅医療・介護連携推進事業 生活支援体制整備事業 認知症総合支援事業 地域ケア会議推進事業 介護予防・日常生活支援総合事業 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築（介護保険法第115条の46の第7項） 	重層的支援体制整備事業 <ul style="list-style-type: none"> 包括的相談支援事業（社会福祉法第106条の4第2項第1号） 参加支援事業（社会福祉法第106条の4第2項第2号） 地域づくり事業（社会福祉法第106条の4第2項第3号） アウトリーチ等を通じた継続的支援事業（社会福祉法第106条の4第2項第4号） 多機関協働事業（社会福祉法第106条の4第2項第5号）
ネットワーク構築に向けた具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア個別会議（個別ケアミーティング、自立支援型） 芦屋多職種医療介護 ONE チーム連絡会 西宮市・芦屋市の退院調整ルール 	<ul style="list-style-type: none"> 重層的支援のチーム会議 多機関協働支援会議（定例型、随時型） 縁ノ場（福祉活動者と福祉専門機関職員の中学校区プラットフォーム）など

※ 相互に密接関連しており、独立した事業としてとらえるべきではない

地域包括支援センターにおける多機関との連携・協働の例



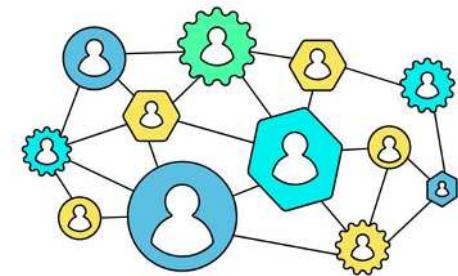
対象者早期発見

地域で生活課題を抱えている人をいち早く発見し、必要な支援に向けて連携する
(例) 民生委員・児童委員協議会、ブロック会



ネットワーク・社会資源開発

類似する生活課題やニーズを解決するために、新たなネットワークや社会資源開発に向けた協議を行う
(例) 地域ケア会議



多職種連携

リハビリ専門職や薬剤師、栄養士などの多職種との連携によって個別支援の質的向上をめざすための協議を行う
(例) 自立支援型地域ケア個別会議

支援センターがかかわる主な会議機能整理表

「地域ケア会議の5つの機能」で分析

令和6年度第2回 芦屋市地域包括支援センター運営協議会提出資料
精道高齢者生活支援センター・基幹的業務担当作成（一部加筆修正）

会議名	個別課題解決機能	ネットワーク構築機能	地域課題発見機能	地域づくり・資源開発機能	政策形成機能	教育的機能	支持的機能
①個別ケアミーティング(地域ケア個別会議)	○	◎		△		◎	
②自立支援型地域ケア個別会議	○		△			◎	
③支援者会議	◎	○				△	
④高齢者虐待ケースレビュー会議			○				
⑤システム改善・資源開発等を検討する場(縦レビュー)			◎	○			
⑥地域ケアミーティング(地域ケア推進会議)			◎	○	○		
⑦高齢者生活支援センター連絡会			○				
⑧包連会			○			△	
⑨職種別専門部会:保健師部会			○	△		◎	
⑩職種別専門部会:社会福祉士部会			○	△		◎	
⑪職種別専門部会:主任ケアマネジャー部会			○	△		◎	
⑫認知症地域支援推進員連絡会		◎	○	△			
⑬若年性認知症ネットワーク会議	△		◎	○			
⑭芦屋多職種医療介護ONEチーム連絡会			◎	△		○	
⑮西宮市・芦屋市退院調整ルールコーディネーター会議		◎		○			
⑯西宮市・芦屋市退院調整ルールコーディネーター会議・芦屋ワーキングチーム	◎			○			
⑰圏域あしもり会			○	△			
⑱地域包括支援センター運営協議会					○		
⑲あしやすこやか長寿プラン21策定委員会					◎		

参考

芦屋市のエリアごとの地域づくりのための協働ネットワーク構想図

芦屋市社会福祉協議会作成（2025年6月修正）

